

## 事例 10 高等学校のOJT実践事例

初めての担任を支える「担任ビギナーズ研修会」を組織的に開催する  
【教務主任（主幹教諭）として】

本校は毎年複数の初任者が配置されており、採用2年目から担任をもつ教員もいる。また、学年の中に初担任となる教員が複数いることも珍しくない。そこで、若手教員を対象にした「担任ビギナーズ研修会」を開催して、担任経験者からホームルーム経営、生徒指導などのテーマに基づいて講義をすることで、経験を共有する機会をもつことにした。

## 〈取組の内容〉

## ○「担任ビギナーズ研修会」の開催

1. 実施時期：2か月に1回を目安に開催（年間行事予定に位置付ける）  
（例：4月、6月、9月、11月、1月）
2. 実施時間：放課後1時間程度（勤務時間内に無理なく設定する）
3. 企画担当：教務主任（主幹教諭）
4. 研修講師：勤務校の教員が担当  
教務主任が、テーマごとに講師役を選定し、2か月前までに打診する。
5. 参加対象：若手教員（異動後初めて担任をもつ教員を含む）
6. 研修形態：前半…テーマに関する講義  
後半…フリートーク（講師への質問等含む）
7. 研修テーマ：① ホームルーム経営  
② 生徒指導  
③ 特別支援教育  
④ 若手教員の悩み  
⑤ 危機管理

現場のニーズに応える研修会を！

企画担当：計画は簡単！  
講師役：自分の経験を話す！  
参加者：本音でフリートーク！

## これが成功の鍵！

## ⑤得意分野や指導力のある教員から学ぶ場をつくる

テーマに合わせて講師を選定することで、先輩教員の得意分野や専門性を生かせると考えました。

また、その時々での旬な話題や、若手教員の要望に合わせて講師を依頼しています。

## ⑦校務分掌などの校内組織を活用する

参加を強制せず、無理なく適度な回数で計画を立てているため、平成26年度から毎年継続して実施しており、若手教員にも好評です。

## 【2年目教員の声】

昨年度から欠かさず参加しています。勤務校での具体例を題材にした研修会なので、研修後すぐに実践へ生かすことができます。先輩教員から話を聞くことができる貴重な機会です。

## 【8年目教員の声】

研修講師を担当しました。担任として卒業生を出した経験を基に話をしました。研修会の準備をする中で、今までの自分の仕事を振り返ることができ、客観的に見つめ直すよい機会になりました。



担任ビギナーズ研修会の様子

## 〈取組の成果〉

- ・研修会の各テーマは一般論ではなく、勤務校で顕著に見られる具体的事例を題材として扱うため、若手教員が具体策から学び、すぐに実践することができる。
- ・若手教員だけでなく、担任経験がある教員にとっても、さらには研修を担当した講師役にとっても、担任としての関わり方について見直す機会となり、お互いに成長できる場となっている。